



日本文化に親しむ

いよいよ冬休みです。通知表には2学期の成長や頑張りが書かれています。それらを親子で確かめ、認め合ってください。子どもが自分の成長を実感し、これからも頑張ろうと意欲が持てることが、冬休みや3学期の生活にもつながっていきます。

その際、大切なことは何を褒めるかです。成績が上がったことやできるようになったことなど成果だけを褒めるのではなく、そのために努力したこと、頑張りを認めて褒めてください。

以前「まごころⅡ」(No.14)において、「ほめるのは成果か努力か」について述べました。心理学においては、成果よりも努力を褒めることの重要性が指摘されています。

なぜでしょうか。成果だけを褒め続けると子どもはできたかできないかだけに目を向けるようになります。成果だけを気にするようになります。一方、努力や頑張りに賞賛を浴び続けた子どもは、そのことの大切さを認識するようになります。ですから少しぐらい成果が出なくても頑張りを認めることができるようになるのです。

成果を導いた努力を、まだ成果は出ていなくても頑張りを認めてあげてください。

さて、2学期の終業式にはいつも「お正月」の話をしています。一昨年は、「しめ縄」「門松」「大掃除」等の話をしました。これらの伝統は全て「年神」に関係があります。昔から日本は、お正月になると年神様を我が家に迎え入れ、その年の幸せや安全を祈る風習がありました。

神が天から降りてくるのですが、その場所は聖地として通常の生活の場とは区別しなくてはなりません。そこで、家の周りに縄をはって聖地として区別したのです。そして、庭には神が降りてくる目印として松が植えられていました。

しかし、時代とともに住宅事情が変化します。家の周りに縄を張ったり、松を植えたりすることが難しくなり、現在のような形になってきたと言われています。また、神を迎える聖地は、当然、清らかで美しくなければなりません。そこで、大掃除です。子どもの頃は、この大掃除が嫌でたまりませんでした。なぜ年末に大掃除をしなくてはならないのか、掃除なんてしなくても正月は来るのにと感じていました。前述のような日本の伝統文化についての知識があれば少しは違ったような気がします。ただ、この大掃除のおかげで年末と正月の区切りはしっかりと体に染み込んでいます。

このような日本の文化を感じつつ、子どもと一緒に大掃除に取り組んでみてはどうでしょうか。

今年は、年越しそばの話をしました。日本人がなぜ年越しそばを食べるようになったのか。どんな願いが込められているのかなど、ぜひ子どもたちに聞いてみてください。ちゃんと説明できるかな？